

日本建築学会パネルディスカッション「東日本大震災における情報通信技術の役割」で登壇しました(2011/12/15)

12月15日(木)、建築会館ホール(東京都港区)にて、第34回情報・システム・利用・技術シンポジウムのオープニングパネルディスカッションとして「東日本大震災における情報通信技術の役割」が開催され、当センターの源栄教授、越村准教授、柴山助教、佐藤翔輔助教が登壇しました。同シンポジウムは、東日本大震災において情報通信技術が果たした役割を導き出すと同時に、今後の復興に向けて、情報通信技術と都市・建築の関係をデザインするためのヒントを見出すことを目的として、日本建築学会の情報システム技術委員会が企画・開催したものになります。登壇者の全5名のうち、4名が本学当センターからの登壇という異例のパネルディスカッションで、「東日本大震災×情報通信技術」をテーマについて本学の研究活動に対する関心の高さがうかがえました。各登壇者の個々の取り組みについての講演ののち、登壇者と司会によるパネルディスカッションが行われ、パネリスト相互の熱心が議論が行われました。各登壇者の講演テーマは次の通りです(登壇順)

源栄正人：緊急地震速報

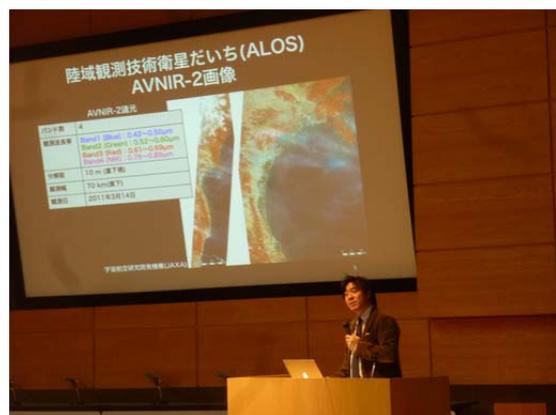
越村俊一：リモート・センシングによる被災状況把握

佐藤翔輔：震災コーパスとテキスト解析

柴山明寛：震災アーカイブ「みちのく震録伝」



源栄教授



越村准教授



佐藤翔輔助教



柴山助教